

平成22年度 業務・林業技術等発表会

平成23年3月3日、4日に関東森林管理局業務・林業技術等発表会の様子です。

局 長 挨拶

平成22年度の業務・林業技術等発表会へ年度末で忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。お陰様で、この発表会も、今年で56回目を迎えることができました。

また、本日の開催に当たりまして、審査委員として宇都宮大学の執印先生、森林総合研究所多摩森林科学園の赤間園長、群馬県の綿貫係長様には、大変お忙しいなか御出席をいただき厚く御礼申し上げます。

今年、「森林・林業再生プラン」が具体的に実行されるための後盾となる「森林法」の改正案が閣議決定され国会に上程されました。

これから、森林計画制度、所有者不在の場合の措置などが審議されることになっております。

こういった中で、国有林に期待される役割は「森林・林業再生プラン」にも書かれておりますが、国有林が持っている組織力や技術力を地域の林業に貢献することであり、国有林に課せられた使命であると思っています。特に国産材の利用の時代を迎え、我々が持っている強みの部分をいかに活かしていくかが大事だと思っています。

そんな中、フォレスターという資格制度が創設されました。私たち国有林の職員もフォレスターを目指して頑張っていたきたいと思います。

私は、技術力というものは、組織としていかに蓄積するかが大事だと思っています。こういった発表会が終わったあと、そのまま資料等が散逸してしまうことが無いようにしていきたいと思っています。

昨年度の発表資料を見ますと、発表課題のそれぞれが、非常に緻密で良い取りまとめが行われており、それらを編集して一冊の良い本になっております。これを私ども組織の現場におります森林官までいかに伝へ、情報を共有していく事が大事であると思っています。



本日発表される14課題の要旨を拝見させていただきましたが、それぞれが時宜を得ており、我々だけの力ではなく、市役所の方や環境省の方と連携して発表を行っていただくようであります。

また、日頃与えられた仕事を行うのが手一杯の中で発表を行うことは、大変だったと思いますが、自らテーマを見つけて発表する事は、大変貴重な事だと思います。発表するということは、自分にとって大変勉強になります。

私事で恐縮ですが、講演を頼まれたときには「もう一度数字を調べ、どうやって理論を組み立てるか。」など調査しなければならず、このことは、非常に自分にとってメリットがあります。本日発表する皆さんは、自らの技術をこういった場を利用してプレゼン能力を高めていただきたいと思っています。

今回の発表会が成功裏に終わりますことを大いに期待しまして、私の開会の挨拶とさせていただきます。

関東森林管理局長 臼杵 徳一

審査員紹介

審査を行っていただいた方々です。


委員長	関東森林管理局計画部長	石澤 尚史
外部委員	宇都宮大学准教授	執印 康裕
	森林総研多摩科学園園長	赤間 亮夫
	群馬県林業振興課普及指導係長	綿貫 邦夫
内部委員	関東森林管理局森林整備部長	河野 充哲
	関東森林管理局計画課長	齋藤 利昭
	関東森林管理局森林整備課長	岩佐 昭二
	関東森林管理局東京事務所副所長	山内 健二



発 表 会

発 表 者	発 表 概 要	
森林技術センター 須崎 智応 持宝 美宣	「広葉樹コンテナ苗を使った水辺林の造成について」 ・ 畦畔の未立木地に広葉樹コンテナ苗を使用し、水辺林の造成を行ったのでその成果の発表	
吾妻森林管理署 高階 智里 柳澤 賢一	「宮脇方式による山腹崩壊地の早期復旧の取組」 ・ 山腹崩壊地の緑化において、早期復旧を図るため取り組んだ工法（宮脇方式）のその成果の発表	
茨城森林管理署 中島 俊和	「列状間伐と高性能林業機械による林業の低コスト化の普及」 ・ 列状間伐に高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムの民有林への普及の取組のその調査結果の発表	
山梨森林管理事務所 平野 辰典	「齢級別のクマハギ被害から防除対策を考える」 ・ 上佐野国有林におけるクマハギの被害状況、被害の傾向、立地環境から効果的な防除対策手法の検討結果の発表	
森林技術センター 仲田 昭一 三村 勝博	「大沢試験地における自助努力型営巣巣箱の利用状況～鳥類における種子散布および森林防疫のための取組～」 ・ 鳥類を利用した種子散布と森林防疫を目的とした試験地内にキツツキ類が営巣することを目的にサクラやカンバの丸太を設置しその営巣活動の観察結果の発表。	

<p>茨城森林管理署 池田 伸 須崎 智応</p>	<p>「ヤマトアオダモにおける天然更新技術の検討」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマトアオダモの稚幼樹追跡調査してきたアオダモ類における天然更新技術の可能性についての発表 	
<p>福島森林管理署 内海 洋太 伊豫田 望</p>	<p>「低コスト造林への取組～コンテナ苗木の植栽後の経過と考察～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテナ苗木の秋植え・春植えにおける生育状況等の経過報告と、植付作業の低コスト化に向けた取組の考察結果の発表 	
<p>大井川治山センター 井上 賢 坂 賢</p>	<p>「上千枚沢における治山ダムの機能強化対策」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上千枚沢において、不安定土砂の仰止と流路の固定を図るため、治山ダムの施行と施設点検等による強化対策の成果の発表 	
<p>塩那森林管理署 大藏 正則 柿沼 昇</p>	<p>「国有林野事業のニーズを満たす測量製図ソフトの開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫調査やその他の業務に活用可能となる簡単な図面作成、現場作業の省力化に貢献する製図ソフトの開発の概要の発表 	
<p>赤谷森林環境保全 ふれあいセンター 藤代 和成</p>	<p>「赤谷プロジェクト発足8年を迎えるに当たって～赤谷の森管理経営計画書の策定～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤谷プロジェクト発足8年を迎えるにあたり各事業の取り組みと、その成果を発表と今後の展望の考察の発表 	
<p>上越森林管理署 丸山 良太 小林 誠 吉田 涼</p>	<p>「地域と連携した森林環境教育への取組～提案型の多彩なプログラムメニューによる森林教室の実施～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国有林の各エリアの特徴を活かした体験プログラムと指導者用マニュアルを作成し、それに基づく実施結果や今後の課題に向けた取り組みの報告の発表 	

<p>棚倉森林管理署 中原 加奈子 蛭間 敦子</p>	<p>「棚倉森林管理署の森林環境教育～地域に根付いた 国有 林を目指して～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棚倉署の森林環境教育のこれまでの事例と今後の課題に向けた取り組みの報告の発表 	
<p>上越森林管理署 藤原 淳一 栗田 喜則 佐藤 直人</p>	<p>「笹ヶ峰地域における生物多様性保全活動への取組 ～地域と連携した水際での特定 外来植物の駆除等について～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COP10 開催年を機に妙高高原地域国有林の生物多様性の保全を図るため、関係団体及び地域住民等と連携・協同し保全管理活動の取り組みの発表 	
<p>小笠原総合事務所 原田 暢</p>	<p>「小笠原国有林における生態系保護の取り組みと協働による森林の管理～地域住民をパートナー（協働）として～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小笠原国有林では、生態系保護を目的として国、島民、ボランティアが「協働」して森林管理に取り組んでいる。この「協働」の取り組みとその成果の発表 	

特 別 講 演

講演内容：「拡大するナラ枯れ」～被害の予測と防除方法～

独立行政法人森林総合研究所	森林昆虫領域長	牧野 俊一
独立行政法人森林総合研究所	関西支所 生物被害研究グループ	
	グループ長	衣浦 晴生
独立行政法人森林総合研究所	九州支所 森林資源管理研究グループ	
	主任研究員	近藤 洋史

の三氏に特別講演を行っていただきました。



牧野 領域長



衣浦 グループ長



近藤 主任研究員

審査委員長講評（計画部長）

審査委員長を努めました、計画部長の石澤でございます。

平成22年度の業務・林業技術等発表会が、多数の関係団体、職員参加のもと、大変有意義なものになりましたことを感謝申し上げます。

この発表会に参加するに当たり、多忙な業務の中、調査・研究、取りまとめに取り組んでいただきました発表者と共同発表者の皆さんと発表までの指導をしていただきました署長ほか署員の皆様に敬意を表します。

とりわけ若い職員の皆さんには、大変だったろうと思いますが、日頃の取り組みと、ここでの発表により、技術力の向上、発表のスキルを磨く良い機会となったのではないかと思います。

また、本日、「拡大するナラ枯れ～被害の予測と防除方法～」と題しまして特別講演を行っていただきました独立行政法人森林総合研究所の牧野俊一様、近藤洋史様、衣浦晴生様に対し、改めて感謝申し上げます。

次に、審査委員を代表しまして、講評と審査結果を発表させていただきます。

まず、審査委員会では、発表全体を通してですが、業務の忙しい中、国民の森林・林業に対する多様な要請を反映した課題に対し、その改善を進めるための取組には、大変、高い評価がありました。

すべての発表者に賞を与えたい思いであります。

また、我々は国民に対し、我々の行っていること等を、判りやすく説明していくことが求められておりますが、それぞれが表現方法に工夫をこらし、発表技術も高いとの評価をいただいております。

森林・林業に関する研究は、明確な成果を得るまでに長期を要することが多いのですが、今回、取り組んでいただいた各課題に使用したデータを着実に引き継ぎ、今後とも調査をお願いしたいという意見をいただいております。

しかし、一方で既往の研究成果を活用していないことや、課題への取り組みや、研究しようとした目的、それに対する結論・考察が明確でないなどの意見もありました。今後、更にデータの蓄積と考察を加えていただき、次回発表していただくことを期待したいと思います。

（各発表に対するコメント略）

なお今回の受賞にもれた課題の中には、継続的な取り組みの成果を期待して、あえて賞を見送ったものがありますことを紹介しておきます。

お陰様をもちまして、本年度の発表会が盛会のうちに無事終了いたしましたことを御礼申し上げます、講評及び審査結果報告といたします。

計画部長

石澤 尚史



○最優秀賞

課題名 「低コスト造林への取組」
～コンテナ苗木の植栽後の経過と考察～
発表者 福島森林管理署 内海 洋太
" 伊豫田 望



最優秀賞

○優秀賞

(1) 課題名 「国有林野事業のニーズを満たす測量製図ソフトの開発」

発表者 塩那森林管理署 大藏 正則
" 柿沼 昇



優秀賞 (1)

○優秀賞

(2) 課題名 「地域と連携した森林環境教育への取組」
～提案型の多彩なプログラムメニューによる森林教室の実施～

発表者 上越森林管理署 丸山 良太
" 小林 誠涼
妙高市役所 吉田 涼



優秀賞 (2)

○優秀賞

(3) 課題名 「小笠原国有林における生態系保護の取り組みと協働に森林の管理」
～地域住民をパートナー（協働）として～

発表者 小笠原総合事務所 原田 暢



優秀賞 (3)